４．南関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連	良くなる	家電量販店（営業統括）	・企業の３月決算が全体的には回復基調に向かっていること、失業率も改善していくタイミングであること、外国からインバウンド旅行者も増加していることなどから、徐々に景気は回復基調を取り戻す。
		その他サービス［語学学校］（総務担当）	・インターネットへの広告が５月末から始まるので、合わせて営業を行う。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・少しずつ世の中の動向と、消費者のマインドが合ってきたようである。店での客の受け答えが全体的に緩くなってきており、これまでとは少し様子が違う。少し高くても買うというような買い方が出てきており、自分へのご褒美的な買い方もかなり目に付くようになっている。
		一般小売店［家電］（経理担当）	・６月より子ども手当の支給が始まるので、子どものいる家庭の購買力回復に期待している。
		一般小売店［家具］（経営者）	・これから先については、子ども手当も実施されるため、幾分消費が伸びるのではないかと期待している。
		一般小売店［靴・履物］（店長）	・買い控えがあり、客の購買意欲がずっと低かったが、暖かくなり商品も変わってくるので、良くなってくる。
		百貨店（売場主任）	・昨年の夏に比べ今年の夏は気温が上昇すると想定されていることや、景気が上向きと報道されていることから、夏物ニーズが高まると期待できる。
		百貨店（総務担当）	・当店及び近隣店の売上は前年を下回る状況が続いていたが、どの店も前年並みまで回復してきているので、先行きはやや良くなる。
		百貨店（総務担当）	・景気全体はあまり上向きになっていないが、製造業、金融業界を中心にやや回復の兆しがみえてきており、３～４か月後には景気も若干回復の兆しがみえてくる。
		百貨店（広報担当）	・天候要因にかかわらず、来客数は前年を上回っている。商品単価は下げ止まり傾向にあるものの、いまだに前年割れの状況であるが、１人当たりの買上点数が前年を上回ってきている。節約志向から堅実な消費へ、堅実さの意味合いも防衛一辺倒から、趣味性の高い商品へと変わりつつある。
		百貨店（営業担当）	・政府の各種給付金が支給されれば、若干財布のひもが緩むかもしれない。
		百貨店（営業担当）	・宝飾、時計をはじめ、高額雑貨が堅調に伸びている。また、高額婦人服、服飾雑貨も伸びてきており、景気が少しずつ良くなってきていることを実感している。
		スーパー（店長）	・景気の低迷も底を付いた感があるし、予想以上にシビアだった価格に対する反応もある程度解消されつつあり、定番関係の商品の動きも過去数か月より上向いてきている。
		コンビニ（経営者）	・売上が非常に悪いところも一部あるが、これからは総体的には良くなるだろうと期待している。
		コンビニ（商品開発担当）	・少しずつではあるが購買単価が増えている。
		衣料品専門店（営業担当）	・近隣の駅ビルのリニューアルで当店のターゲットとするミセス層の店舗がすべて撤退したため、当店の客数は伸びてきている。
		家電量販店（経営者）	・テレビ以外のエコポイント商品が浸透して、この夏商戦は、エアコンや冷蔵庫の売上が伸びることを期待している。テレビは対象品目の減少で今は一服感が出ているが、６月のワールドカップ効果で再び盛り上がると見込んでいる。
		乗用車販売店（渉外担当）	・エコカー購入補助金及び減税、免税の延長により、９月までは購買意欲が続く傾向である。前年４月は新型車の販売で驚異的な受注量だったこともあり、受注量は前年比で40%以上ダウンしているが、受注残のある状態であり、やや良い状態が今後も続く。
		その他専門店［雑貨］（従業員）	・節約志向でゴールデンウィークなどに旅行する人が減り、近場で買物などして楽しむ人が増えると予想されるため、やや良くなる。
		その他小売［ショッピングセンター］（統括）	・４月前半は春物、新生活商品が動き出したが、寒暖差により購買意欲がやや低迷している。来客数は伸びてきているので、気候が安定すれば現状よりも良くなる。
		高級レストラン（支配人）	・先の受注は前年同時期に比べ、企業を中心にやや増加傾向にある。ただし、業績悪化を理由に会合の取り止め、縮小をする企業もあるので、完全な景気回復はまだ先になる。

		都市型ホテル（スタッフ）	・一般宴会は料金を下げて人数を集める対策を続けており、ほぼ前年並みの集客数である。婚礼は対策が当たり、２～３か月先の集客は前年比２割増で、宿泊も予約人数が同１割増となっている。レストランはゴールデンウイーク明けの集客に不安が残るものの、年明け以降、前年横ばいか２ポイント程度上昇できているので、このままの状態で進んでいく。
		旅行代理店（従業員）	・前年同期比で申込は110％を超えており、企業も販売費用などを活発に使っている動きが見られるので、先行きはやや良くなる。
		タクシー運転手	・世界的にみて景気は上向きのニュースが流れており、天候も例年の暖かさに戻るようである。企業の接待客も増えてきているようで、景気は良くなる方向にある。
		タクシー運転手	・ようやく当業界も今月後半から良くなって来ており、このまま上昇していく。政府の景気対策等によって、今後も客の出足が良くなる。
		通信会社（総務担当）	・３月は転居の時期であるため、通例新規契約数よりも解約数が上回るのであるが、今年はそのような現象がなかったことや、有料チャンネル加入も増えていることから、徐々に景気回復がなされている。
		通信会社（営業担当）	・各戸デジタル対策が進む。デジタル対策としてのケーブルテレビの存在意義は頭打ちであるが、以前より単身層に余裕が出てきているようで、集合住宅居住者の多チャンネル視聴希望は増えていく。
		通信会社（営業担当）	・今年はサッカーワールドカップ、上海万博等のイベントもあり、韓流コンテンツの人気や３Ｄなどテレビ関連の話題が盛り上がってきている。テレビ獲得を手始めにインターネット、電話、携帯電話の加入にもつなげたい。デジタルへの移行も一巡し、解約圧力も多少軽減されつつあるので、純増で上向きとなる見込みである。
		ゴルフ練習場（従業員）	・これからゴルフシーズンに向けて、来客数、売上等良くなっていく。
		パチンコ店（経営者）	・夕方の来客数が増え、以前より長く滞在するようになっている。夏に掛けては暑さのために涼を求めて客が来店するようになり、当店も活気付く。
		その他レジャー施設［アミューズメント］（店長）	・母体ショッピングセンターの来客数が増えている状況が続き、当店にプラスに働くことが期待できる。特に夏休みは当店客層と合った映画話題作が数本公開される予定があり、遊び目的で映画館、ショッピングセンターに来店する客が増えることが予想されるため、さらに好調傾向が続く。
		その他サービス［立体駐車場］（経営者）	・特約している大型店が新装開店したため、やや良くなる。
		住宅販売会社（従業員）	・大型連休により来場者数の増加が期待でき、住宅版エコポイント制度も浸透してくるため、やや景気が良くなる。また、建売会社が積極的に土地の購入を進めているようで、物件の供給数が増え、販売増につながる。
		住宅販売会社（従業員）	・契約数が増加している。
	変わらない	商店街（代表者）	・食料品関係の店舗が２～３軒閉店したため、商店街の客数が減少していくのではないかと懸念され、非常に厳しい。
		一般小売店［家電］（経理担当）	・現在のような販売の仕方はしばらく続く。世間の景気は依然として厳しい。
		一般小売店［生花］（経営者）	・生活必需品の売行きはそれなりにあるだろうが、当店は趣味の物を扱うインテリア関係の店なので、今後販売量が増加することは望めない。
		一般小売店［衣料・雑貨］（経営者）	・今後気温が上昇すると考えて夏物商戦を展開し、末端の小売業やファミリー製造業の景気を見ながらデフレ脱却に気を付けたい。
		一般小売店［祭用品］（経営者）	・良くなる理由がない。
		一般小売店［文具］（販売企画担当）	・当店もそうだが周りをみても、淘汰されて生き残ったところは伸びている。ただ、３～４月は最需要期なのであまり参考にならない。５月になって初めて本来の景気の良し悪しが判断できる。
		百貨店（総務担当）	・内需拡大の要素が見られないこと、経済活性化の大きな政策が出てこないことから、変わらない。
		百貨店（総務担当）	・今後気温の不安定要素が改善され衣料品に動きが出てくることを期待しているものの、政治不信があるなかで売上の確実な改善までは今しばらく時間を要する。
		百貨店（企画担当）	・目先の消費環境の変化は特にない。

百貨店（広報担当）	・客の買物を楽しみたいという欲求が見え、製造業の業況や株価も上向きと、上昇に転じる要素は多数あるが、政権が安定せず自分たちの生活環境がどう変化していくかの不安が払しょくされないので、様子見の状況は今後も続く。
百貨店（営業担当）	・夏に向けてますます商品単価が下がってきているのが、仕入れ段階で明らかになっている。客数を大幅に増やさなければ、前年を維持するのは厳しい。今後も苦しい状況は変わらない。
百貨店（営業担当）	・来客数、買上客数の減少はようやく底を打った感が出てきたが、購買金額の縮小については復調が厳しい見通しである。一部の店舗で他社の店舗閉鎖による売上増があるものの、全般的に大きく回復する傾向はみられない。
百貨店（販売促進担当）	・ゴールデンウィーク後の動向は完全に個人消費が主軸になるため、不安が残る状況である。子ども手当についての声が意外と聞こえてこないが、子ども用水着の動向が早い等、子ども関連の購買は期待できるので、家族、３世代向けの動員策は尽くしていきたい。
百貨店（販売促進担当）	・購買につながるような機会がない。
百貨店（業務担当）	・テレビに放映されたようなヒット商品は非常に売れるが、話題性に乏しい商品の売上、単価は上がらず、客数は変わらなくても購買額が伸びないという状況下にある。そのほか天候不順やガソリン高騰など、いろいろな要因があるなかでは、３か月後の景気が回復し、売上増につながっていくか、まだまだ不透明感がある。
百貨店（営業企画担当）	・消費者の購買意欲は依然として回復しておらず、楽観視できない状況である。
百貨店（店長）	・富裕層の一部で高額品を中心に消費動向は上向いてはいるが、政治に対する不安が更に大きくなりつつあり、まだ回復基調ではない。
スーパー（経営者）	・野菜価格の高騰により１点単価が上がってもよいはずであるが、それもなかなかみられず、客単価の下落も続いている。３か月先については多少悪くなる可能性もあるが、今も良くないので同じような状態が続く。
スーパー（店長）	・近隣にまた競合店が出店するので、プラス要因よりマイナス要因が多いなかで、今と変わらない。できれば良くなる方向に持っていきたいが、競合店いかんでは逆に悪くなる方にいく状況である。競合店がオープンしても負けないように、チラシの号外などで集客をしていく。
スーパー（店長）	・通信費や教育費、ローン等の支払いを節約し、趣味し好、娯楽関係に節約した分のお金を使う動きとなる。
スーパー（総務担当）	・賃金や雇用の状況から個人の消費が伸びることは考えづらく、天候与件などからもプラスに向かうとは考えにくい。
スーパー（仕入担当）	・天候が悪く野菜の高騰が続いている。天候が回復しないと季節的な商品の販売動向が落ちる。
スーパー（仕入担当）	・競合各社とも売上確保のため、価格訴求に走っているが、単価の低下を招くだけで全体の売上増にはつながらない。商圏が狭くなるなか、依然価格競争が続いていく傾向にある。
コンビニ（経営者）	・夏にかけて天候不順が商売にどのように影響してくるか、今のところ分からないので変わらない。
コンビニ（経営者）	・客単価の低下に歯止めが掛からない。客数が上昇している間は現状を維持できるが、天候等により大きく左右されるので、実際には先が読めない。
コンビニ（経営者）	・再開発事業終了に伴い、区画整理で道路、動線、歩道や駅へのアクセスが著しく変化した。このため、裏通りにある当店は午前中からお昼に掛けて人通りが減るようになってきたので、少し心配である。駅周辺の集客力が上がっているので相殺されるのではないかと考え、総じて変わらない。
コンビニ（商品開発担当）	・景気停滞、天候不順等、消費改善への足かせが多く、なかなか楽観的な見通しは立てにくい。
衣料品専門店（経営者）	・客の様子を見ていると、我慢も限界にきたような人もいて、買う目的で来店する客が目立ってきている。商品単価はまだ中の下というところだが、２、３点まとめ買いする客が多く、客単価は徐々に上がってきている。ただ、天候次第であるということと、売上自体は特別上がってはいない状態なので、先行きは変わらない。
家電量販店（副店長）	・新商品発売直後の価格下落は継続すると思われるが、エアコン需要による白物家電の販売台数増加、エコポイント需要によるテレビ販売台数は、引き続き好調に推移する。

		家電量販店（統括）	・テレビの構成比が異常値を出した１～３月が終わり、通常月の構成比へ戻っている。前年のゴールデンウィーク前は、エコポイント前の買い控えで大打撃を受けたが、今年は５月15日～９月末までは一定の伸び率で推移し、大きな動きはない。10～12月にピークがやってくるとみている。
		乗用車販売店（経営者）	・景気回復のきっかけがない。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車整備の受注は順調だが、販売は補助金制度等が実施されているにもかかわらず、あまり芳しくない。
		乗用車販売店（販売担当）	・最近のガソリン価格上昇のためか、低燃費車両の売上が良い状態で推移している。法人関係についても少しずつであるが需要が伸び始めている。
		乗用車販売店（総務担当）	・エコカー補助金効果と新型車投入により少しは販売量が増える。ただし、人気車種の車両確保は難しく、生産が間に合わない感がある。補助金対応が９月までのため、その後は苦しくなる。
		その他専門店［服飾雑貨］（統括）	・全体の来客数も減り、客単価に大きな変化はなく、消費全体が鈍化している感がある。
		その他小売［ゲーム］（統括）	・テレビが３Ｄ化で話題を独占しているが、この効果がゲーム業界にも及ぶのは必須である。また期待度も高い。ただ、ゲーム開発は着手してから出来上がるまで２～３年掛かるため、市場に出るのはもう少し先になりそうである。
		一般レストラン（経営者）	・３か月後もまだ不動産や会社自体の景気は良くならない。また、子ども手当等が支給されてもなかなか消費に回るほどの経済効果は見込めない。本当にデフレでとにかく安くしなければいけないという雰囲気になっている。
		一般レストラン（経営者）	・３か月後の景気は少し悪くなるかもしれないが、全体的には今と大して変わらない。
		一般レストラン（経営者）	・桜の開花以降の低温多雨の影響は、野菜価格の高騰ばかりでなく、すべての食の循環を狂わせている。今後、食の回復までは時間が掛かると考えている。
		一般レストラン（店長）	・通常であれば２、３か月先にはボーナスも出て良くなると考えるところだが、節約する給与所得者が多いため、３か月先も今と変わらない。
		旅行代理店（経営者）	・高速道路料金引下げについて政府の結論が出ないため、客が二の足を踏んでいる状況なので、見積問い合わせはあっても結果としてまだ表れていない。
		旅行代理店（従業員）	・景況感は今後もあまり変わらないが、成田、羽田の拡張が進み、機材の規模縮小はあるものの座席供給量は増えるはずなので、ビジネスの要素としては明るい材料はある。
		旅行代理店（従業員）	・国内団体旅行は、５、６月も４月同様引き続き人数ベースで前年を上回る状況である。
		タクシー運転手	・これ以上悪くはならないだろうが、上向くにはまだ厳しさが残る。接客サービスでいかに客を確保するかが今後の課題である。
		タクシー（団体役員）	・景気や天気に投影される業界なので、今後の経済対策次第であるが、実車率や輸送回数が大幅に良くなる材料が無く、厳しい営業が続く。
		タクシー（団体役員）	・契約会社のタクシーチケットの売上も伸び悩んでいる。また、客の利用回数もさほど伸びていないので、このままの状況でしばらく続く。
		通信会社（営業担当）	・地上デジタル放送移行に向け１年という時期は新規契約の機会でもあるが、同時に他社サービスやアンテナへの切り替えにも影響が出ると考えられ、予断を許さない。
		通信会社（営業担当）	・地上デジタル放送対策は認知され始めたが、直前まで対応を待つ客が多い。
		ゴルフ場（支配人）	・夏場に向けての予約状況が平年並みである。
		その他レジャー施設［ホール］（支配人）	・エコポイントのある家電、車は好調の様子で、衣食についても努力次第では好転している様子だが、個人消費では優先順位の低い趣味し好に類する「歌舞音曲」の世界は、アイドル以外での興行には厳しいものがあり、当面この状況は変わらない。
		その他レジャー施設（経営企画担当）	・ホテル稼働率は前年よりも向上する反面、客室単価は下落するなど、よほど的確にニーズに合わない限り、客の価格に対する姿勢は厳しく、今後も楽観はできない。
		その他サービス［福祉輸送］（経営者）	・政治経済の状況が安定しないままであり、方向感のないなかでは大きく投資に踏み込むこともできず、サービス関連、商業関係の部分が動いていない。良くなるとは言えないし、またこれ以上悪くなっていくというような状況でもない。

		設計事務所（所長）	・長い不況のトンネルを抜け出す気配も無く、現在の状況ではどうしようもない。
		設計事務所（職員）	・建設資材のうち、鉄鋼が再び上昇を始めている。以前のレベルまで上昇する可能性は低いと言われており、下向きとなるほどの影響はないと思うが、上向きとなる傾向は少なくとも表れない。
		住宅販売会社（従業員）	・土地の売買状況を見ても活発な動きを感じられない。住宅展示場の集客状況も今のところ前年並みで、厳しい。
		その他住宅［住宅資材］（営業）	・以前に比べると明るい兆しが多少見えてきたが、どんどん良くなっていくというほどは伸びない。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・これまでも客に来てもらおうと一生懸命いろいろなイベントを行ってきたが、今年はかなり内容を吟味し、今までとは違った売出しをしている。それでも前年の売上、来客数に届くのは難しい状況である。平常時の店頭売上も大変落ち込んでおり、いつまでこの状況が続くのかと不安を感じている。
		一般小売店［和菓子］（経営者）	・ゴールデンウィークで高速道路料金引下げを利用し、地方に人口が流出してしまう恐れがある。天候は旅行にプラスの要因だが、反対にガソリン、野菜の値上げ等で、し好品に対する購買意欲が落ちる。
		一般小売店［家電］（経営者）	・今月はまだ多少テレビの需要があり、たまたま大きな空調設備の工事を獲得できたが、これから先は液晶テレビの単価が下がっていくのと一緒に売上も下がっていく。今は液晶テレビ頼りのところがあるが、その需要も徐々に収まってくるのでやや悪くなる。
		一般小売店［茶］（営業担当）	・自動給茶機等を廃止し、社員の自己負担でという会社がますます増えてきている。企業向け売上はもとより、個人向け戦略を考えていかなければ、ますます厳しい期を迎えそうである。
		百貨店（副店長）	・客の買い方がますます慎重になってきている。
		百貨店（販売管理担当）	・３、４月とバーゲン品の動きが芳しくない。この傾向が続くと６～７月のクリアランスセールは苦戦が予測されるが、逆にセールで好転する可能性もあり、不透明である。単価の下落傾向が続く中で来客数が伸び悩んでいる現状からは、今後の景気はやや悪くなると予測せざるを得ない。
		コンビニ（経営者）	・デフレは変わらない。天候により、先行きは厳しくなる。
		コンビニ（経営者）	・政治の混乱が経済にも波及し、一般国民の経済的なものの考え方は非常に消極的になりつつある。したがってこの１、２年は低迷する。
		衣料品専門店（経営者）	・春物の動きが悪く、天候不順は長引く様子なので、これから初夏物になっていくが客の購買は止まってしまい、良くない状況である。
		衣料品専門店（経営者）	・いろいろな指標では景気が底打ちしたということだが、身の回りではあまりそういう実感はない。政治や経済にあまり明るいニュースがなく、デフレにもなっているので、景気の悪さは当面続く。
		衣料品専門店（店長）	・一部のデータから景気回復の兆しと報道されているが、消費の回復要因が見当たらない。単価を下げて数量を増やし売上を取ろうとしても、数量が増えないため前年同比で10%近く減少している。
		衣料品専門店（営業担当）	・不況と政情不安、野菜の値上げ等で、消費は非常に厳しい。
		乗用車販売店（店長）	・エコカー減税及び購入補助金効果もやや薄れ、新型車が出ない現状で、非常に厳しい戦いが予想される。
		乗用車販売店（販売担当）	・現在トラックの需要が伸びているのは環境助成金の関係である。助成金は６月ごろに枯渇し、それ以降については出ないと思われているため、年後半は相当厳しい。排ガス規制があり現行の車は８月までの登録だが、９月以降については環境助成金がない、排ガス規制をクリアした新しい車が出るため値段が上がる。今後数か月間、厳しい状況が続く。
		住関連専門店（統括）	・景気の良くなる要素がない。このままの状態が続くか、もしくはもう少し悪くなる。
		その他専門店［ドラッグストア］（経営者）	・前年のインフルエンザ騒動によるマスクの売上が非常に大きく、前年の数字を取ることは非常に困難である。また、改正薬事法が施行されて１年たち、制度の認知も薬剤師の手配もあまり進まないので、薬剤師不在時間もある中途半端な店という認識をされてしまい、医薬品の売上に大きく影響している。

		一般レストラン（スタッフ）	・ゴールデンウィークがあるので旅行等は良くなるだろうが、当店は観光地というほどではないので、客が当店に落とすお金は少なくなる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・婚礼予約業務を行っているが、販売が非常に厳しい。特に７～９月の状況がかなり厳しく、伸びがあまりない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・婚礼相談の来館が減っているので、受注件数も伸び悩んでいる。
		旅行代理店（支店長）	・６月については全く動きが無く、前年比の半分くらいの受注で非常に苦戦している。７月になると個人は動き出すが、法人関係は厳しいため、今月より状況は更に悪い。
		タクシー運転手	・５月の連休、８月の夏休みと、連休を控えているため、無駄を省くためにどうするか試行錯誤をしている段階である。なかなか良い影響は無いようである。
		遊園地（職員）	・消費マインドの冷え込みからの脱却を期待できる要素が見当たらず、ガソリン価格の値上げ傾向の継続は出控えの要因ともなり、消費者の支出抑制傾向はまだ続く。
		その他サービス［学習塾］（経営者）	・生徒数は横ばいだが、単価を下げている塾が多いので、景気は悪くなっている。
		設計事務所（所長）	・今より後退して、目一杯下のラインがあるような、まだ悪くなる部分がある。大手は多少良くなると判断しているようだが、零細はやはりまだ下降しそうである。
		設計事務所（所長）	・いずれにしても計画がなかなか前に進まない。特に当社については新築物件等の案件がなかなかまとまらない。
		住宅販売会社（従業員）	・販売量に関しては今年に入ってから順調だが、それに伴う仕入が上手くいっていない。そのため、在庫が今後少なくなってくるので、やや悪くなる。
	悪くなる	一般小売店［茶］（経営者）	・４月は天候不順で茶の売上が低迷している。関連商品の茶で煮込んだ魚の佃煮や菓子類が全体の売上の２割になることもある。全体の売上は下がっている。
		一般小売店［食料雑貨］（経営者）	・オーバーストアのため、客がイベント、特売のお店に移り、固定化しない。
		一般小売店［茶］（営業担当）	・低温が続き天候不順のなか、旬を過ぎた茶を利用してくれるのか心配である。
		衣料品専門店（経営者）	・かなり購買にシビアになっている、マスコミ等で春物衣料が売れない等の報道が多く、デフレ感が一層強まっている。粗利益の低下が予想される。
		その他小売［生鮮魚介卸売］（営業）	・とにかく売れない。客が来ない。
		美容室（経営者）	・商店街の大型スーパーが閉店した。生鮮産品も魚屋１件しか残っていないため、どんどん悪くなる。
		設計事務所（所長）	・長期に渡って民間の動きが無く、前年、前月より常に悪い状況であるため、この状態が続くとさらに悪くなる。
企業動向関連	良くなる	－	－
	やや良くなる	食料品製造業（経営者）	・ぼちぼち良くなってきつつあると言う消費者が多くなってきている。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・法人もやや上向きであるが、それ以上に個人需要が伸びている。１人の客で印鑑の３本セットはあまり出ないが、そうしたものを注文する客もある。
		金属製品製造業（経営者）	・しばらく引き合いが無かった受注先、また、加工品などの注文が出てきて、総じて仕事量も多くなってきている。
		金属製品製造業（経営者）	・自動車関係の流れ部品が従来の３分の２程度に戻ってきている。３か月先の注文が入るようになってきているので、その先は少し分からないが、とりあえず良くなってきている。
		一般機械器具製造業（経営者）	・自動車関係は４、５月は例年良くないが、内示では少し良くなっているようで、６月ぐらいからは幾分良くなる。
		その他製造業［化粧品］（営業担当）	・世間的に回復基調にあるなか、ようやく消費者の懐が暖まってきている。
		建設業（営業担当）	・分譲マンション建設の動きが徐々にではあるが出てきている。建設資材も上昇傾向にあるなか、事業者が増えて来ているので追い風になる。
		通信業（経営者）	・子ども手当、エコポイントに期待する。高速道路の通行料金は平日、休日の差が無くなったので、観光客の平準化が図られる。
		不動産業（総務担当）	・新規に入居を希望する企業の動きも少しずつ出てきていることと、新規売出しのマンションが予想以上に売行きが好調であることから、景気は良くなる傾向にある。
		経営コンサルタント	・子ども手当が貯蓄以外にどれだけ消費されるかであるが、関連消費に期待できる。

		その他サービス業［情報サービス］（従業員）	・４月に入って受注量はまだ継続的に減少しているが、業界動向としては建設計画を凍結していたマンションの工事再開など、明るい材料が出てきている。すぐに受注という結果には結び付かないが、傾向としては上向きである。
		その他非製造業［商社］（営業担当）	・顧客の提案に対する興味喚起が高い。
	変わらない	繊維工業（従業員）	・２、３か月先では、悪い状況に変わりがない。国内産のオリジナリティが認められるのは、景気が回復すると共に、雇用形態や賃金水準が安定した後となるため、相当先になる。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・当社はジャンルを選ばず、工業部品から雑貨、看板までいろいろな物を受けているが、すべての業種で仕事が落ち込んできている。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・状況が不透明なため、現状と変わりない。
		出版・印刷・同関連産業（所長）	・もうこれ以上悪くなると考えたくないのが実情である。体力勝負で競合する同業他社より我慢することができれば、他力本願ではあるが徐々に回復することができると考えるが、今は我慢するしかない。
		出版・印刷・同関連産業（総務担当）	・例年からみて、依頼が無くなっている仕事が増えている。
		化学工業（従業員）	・生産量は同じであるのに、在庫量が少し増えている。出荷量が伸び悩んでおり、増える材料は特にない。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・大企業の一部は良くなっているかもしれないが、中小企業まで回ってくる様子も、良くなる理由も見付からない。
		金属製品製造業（経営者）	・中国への輸出はいずれ中国での現地生産に切り替わる。中国が加熱しすぎで生産能力をオーバーしているために日本で応援をしているというのが、当社の受注量が増えている本当のところのため、中国が落ち着けば受注量は下がることが明らかである。そのため、本当の景気回復ではない。
		一般機械器具製造業（経営者）	・良くなるような気配が見当たらない状態がずっと続いているため、変わらない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・全般的な景気の流れが悪い中で、問い合わせに対して購買決定に至るまでの予算が取れるかどうか、今後の景気上昇を待つより仕方がない。従来販売したメンテナンスの仕事を見付けて、成り立たせていく。
		精密機械器具製造業（経営者）	・受注額は増えるが、鉄、非鉄、樹脂等の原材料の高騰により更に支払いが増え、収益が悪くなっている。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・９月から排気ガス規制が厳しくなるが、その新車等は高く、当店が扱う部品は中型以上の大型であるため、なかなか売れない。現在は最盛期の４分の１ぐらいであり、上向くかどうかはこれからであるが、景気はこれ以上良くならない。
		その他製造業［鞄］（経営者）	・何か良い、景気が良くなる話題でもあれば別だとは思うが、当分変わらない。
		建設業（経理担当）	・役所の会計年度が新しくなり、公共工事の発注がいくつかあったが、民間では工事案件が無い。先行き不透明な状況がまだ続きそうである。
		通信業（広報担当）	・小規模事業者にとっては、ここから一段の改善は難しい。
		金融業（役員）	・客の受注状況や話からして、３か月後もかなり厳しい状況が続く。
		金融業（支店長）	・客の資金繰りは安定しているが、受注状況、売上等は不安定で利幅は戻って来ていないということを考えると、まだ現状のような景気が続く。
		金融業（渉外・預金担当）	・しばらくは調整が続くとの考え方が支配的であり、現実そのような業況である。
		広告代理店（従業員）	・売上増につながる仕事が何も出てこない。既存の仕事の減少も無い。
		経営コンサルタント	・ひところより人の動きは出てきている。駅前にある中規模ビジネスホテルでは、ここ２～３か月は客室の稼働率が前年同月を上回り、ビジネス客、観光客、いずれも増えているという。しかし、支配人が心配するのは、政界の動きであり、ひと波乱ありそうな雰囲気は人々を不安にさせ、また出控えが増えるのではないかと不安そうである。
		経営コンサルタント	・新聞等では輸出関連企業の業績向上の話があるが、取引先の製造業、サービス業は共に良くなる気配がみえないまま推移している。
		社会保険労務士	・良くなるという要因が見当たらない。
		その他サービス業［映像制作］（経営者）	・全体的にはやや持ち直しているようにみえるが、広告などがまだまだで、今後２、３か月は選挙の影響などもあり、先行きは不透明である。

		その他サービス業［廃棄物処理］（経営者）	・先行きの不透明感の根強さに加え、厳しい価格下落傾向がしばらく続く。
		その他サービス業［ビルメンテナンス］（経営者）	・新規発注が増えてくれば景気の上向き感は出てくるが、現行では新しい動きは無い。
		その他サービス業［警備］（経営者）	・しばらくはこの状態が続く。
	やや悪くなる	プラスチック製品製造業（経営者）	・住宅関連部品に関して２～３か月間受注量の情報を得たが、化粧品容器や医療容器は回復の兆しがみえず、また新規の企画や取引もなかなか進まず、まだ予断を許さない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・一部の企業は業績が持ち直してきているそうだが、当業界は建設関連のため、縮小の方向にまだ向かう。
		精密機械器具製造業（経営者）	・売上予定が全く立っていない。
		建設業（経営者）	・先の見えない景気であり、政府も先の見えないことばかりである。案件自体も少なく、受注までにはほど遠い。
		輸送業（経営者）	・ゴールデンウィークによる稼働日の減少と取扱量の低迷が続いており、状況の好転は望めそうもない。
		輸送業（所長）	・取引先から、倉庫の借上に対して一部返却要請があったり、配送に関しても運賃が安い業者に変更と、今までの信頼関係より「安ければ」といった流れになり始めている。
		不動産業（経営者）	・空室対策をどうするかが大きな課題である。
		その他サービス業［ソフト開発］（経営者）	・ギリシャの問題の再燃で円高が進むため、やや悪くなる。
	悪くなる	輸送業（総務担当）	・荷主メーカーの生産体制が昼勤のみのワンシフトなため、生産量は半減以下の状態で、出荷量も激減状態が続く。トラックは車庫で待機状態となり、今後も最悪の状態が続く。
		広告代理店（経営者）	・例年も「夏枯れ」の時期だが、今の状況から今年は枯れが例年以上に激しいのではないか、という想像しかできない。
雇用関連	良くなる	－	－
	やや良くなる	人材派遣会社（支店長）	・国などによる３月末卒業未就職者支援事業が動き始め、雇用の拡大が見込まれる。
		新聞社［求人広告］（担当者）	・本当に先行きが分からない。この間も相当数の募集をかける事業所があったが、募集を出す寸前に新事業が中止となり、ストップが掛かった。企業も何とかしようといろいろな策を講じているが、何ともいかない。ただ、年度が変わっていろいろな新しい状況が生まれて動いてはいるようで、何か月か先には多少は期待が持てる。
		職業安定所（職員）	・一部の事業所においては、受注量の増加から休業規模を縮小する事業所、一時的に休業を実施しない事業所が見られるようになってきている。
		職業安定所（職員）	・昨年は採用について景気動向を様子見していた事業所が、社員募集を派遣からパート、契約社員に切り替えている。また、正社員についても少しずつ採用を検討している事業所が増加している。
		職業安定所（職員）	・業種別新規求人数は、前年比はほとんどの業種で減少となっていたが、３月は約半数が増加に転じている。雇用情勢で景気の上昇を感じるにはしばらく時間が掛かるが、製造業の求人も徐々に増えてきている。
		民間職業紹介機関（経営者）	・最悪期は過ぎたようで、営業を中心に特に外食、生保で求人数は増加している。また、派遣利用の制限から直接雇用の検討に入った会社がみられる。
		民間職業紹介機関（経営者）	・米国の大手金融機関の破たんの２年ほど前と比べて、製造メーカーは在庫調整、需要の停滞でかなり生産が落ち、今の時点で７～８割くらいの感じがする。２年前までにはまだ時間が掛かるかもしれないが、少しずつ戻っていく。
		民間職業紹介機関（職員）	・今期の計画がはっきりしてきている。採用に慎重だった姿勢が少しずつ変化してきており、求人数が増加し、面接における合格率が少し上がってきている。この動きが今後も継続していく。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・改善の兆しがみられるも、先行きが不透明である。今後の生産状況、雇用については、各メーカー共通で依然慎重な姿勢がみられる。
		人材派遣会社（業務担当）	・先日、フォークリフトオペレーターの募集をしたところ、過去には考えられないほどの応募者が来た。前職での仕事が少なくなり、生活できる賃金を得られず退職に追い込まれた人が多数いた。多数の業界で物量の停滞が継続している証拠である。今後、物が活発に動きだす材料が見当たらず、当分は現状のまま推移する。

		人材派遣会社（営業担当）	・求人増加の企業はごく一部と感じており、全体的に回復しているとは考え難い。各企業とも新規求人はほとんどなく、派遣求人案件も現状人員の後任採用がほとんどである。企業によっては、更に人員を削減する企業もあり、全体としては依然変わらない。
		人材派遣会社（営業担当）	・派遣の規制強化に伴い、様子見をする企業が出てきており、そういった企業が今後も増えてくる。安直に派遣を請負契約に移行できるものでもなく、しばらくは我慢の期間になりそうである。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・経済指標の改善は見られるようだが、人材採用費が一気に増えるとは思えない。12年卒の新卒採用から少し上向くと期待している。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・先の受注状況をみてもなんら変わりがないので、このまま変わらない。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・求人１件に対して求職者の割合が依然高く、応募が殺到する状態となっている。応募数が確保されることで求人企業にとってはコストを掛けずに採用できる可能性が非常に高くなっている。以前のような採用難職種であっても採用可能性が高いため、採用コストを絞った求人活動が続く。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・４月は特需的な要素もあるので、長続きをするとは考えにくい。
		求人情報誌製作会社（編集担当）	・このところ求人の業種が増え始めた傾向にあったが、４月は期待に反して動きが鈍り、求人数も減少している。動きにとらえどころがなく、予想しづらい。
		職業安定所（職員）	・求人数は変わらない状況であるため、今後、就職者数が増えるとは予想できない。
		職業安定所（職員）	・雇用失業状況は持ち直しの動きがみられるが、まだ厳しい状況である。
		職業安定所（職員）	・求人が前年比で増加傾向にある。しかし昨年の落込みが大きかったため、有効求人倍率は依然として低水準であり、まだ厳しい状況が続いている。
		職業安定所（職員）	・一部の業界を除き、消費低迷やデフレ等が要因となって企業収益が伸び悩んでいることから、数か月で景気が回復するとは思えない。
		学校［専修学校］（就職担当）	・新規採用、増員計画等の連絡はなく、おおむね年初確認状況に変更はみられない。
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・ガソリンが徐々に高くなってきており、気候が非常に悪く季節商材が売れないため、夏ぐらいまでに景気が良くなるという見通しがないという見立てが、中小企業経営者の話には多い。
		人材派遣会社（支店長）	・労働者派遣法改正の成立次第だが、成立、公布されると更に派遣利用を敬遠する企業が増えていく。
		学校［短期大学］（就職担当）	・景気が良くなる要素がない。景気の様子を見て、採用を見合わせている企業が多い。
	悪くなる	学校［専門学校］（教務担当）	・ある企業は、６月以降の仕事の受注が全く無く、従業員への給料等を考えると新卒の採用を見合わせるしかないと言っている。したがって、この時期の内定者は前年同時期の５分の１にとどまっている。